

【追悼】

〔北山研二のためのテキスト〕

ドミニク・シャトー

ジャシント・ラジェイラ

ジョゼ・ムール

フランソワ・スーラージュ

北山研二の訃報に接し、私たちはたいへんな悲しみを覚えています。かくも若くして早逝した彼（1949年生れです）は、最近、たくさんの研究プロジェクトのこと、そして何よりも、旅に出たい、特には、彼が格別に大切にしている国、フランスに行きたいと強く願っているということを、私たちに話してくれていました。彼は結局、フランスを再び訪れることはできませんでしたが、それはもっぱら新型コロナウイルスのせいです。

彼はたいへん優れた大学人として、日本（成城大学）で認められているだけではなくフランスでも高く評価されていました。パリ第3大学でのレイモン・ルーセル研究による修士号取得をはじめ、パリ第1大学およびパリ第8大学での客員教授としての目覚ましい仕事、日本におけるデュシャン研究の第一人者（デュシャンのノートを翻訳したのは本当に偉業でした！）にしてフランス映画（日本映画はもちろん）の専門家としての優秀さ、そしてその他たくさんの彼の専門知、特にジャポニスムやル・コルビュジェに関する講演など、どれもすべて、フランス文化に対する彼の知識と愛情とを一貫して証明するものでした。

彼はまた、そして何よりも、「友」という言葉の最も深い意味でのひとりの友だったのであり、私たちはこの友と、パリで、また日本で、共に生き共に遊ぶ素晴らしい時間を分かち合いました。私たちが日本に招かれたのは、2017年に成城大学で行われたシンポジウムの際でした。その後、彼とはソルボンヌでのシンポジウムで再会しました。このシンポジウムの内容は、ごく最近、『日本映画（とフランス映画）における日常的なもの』〔*Du quotidien dans le cinéma*

japonais (et français)〕という本にまとめられて出版されたのですが、これに収められた彼の水際立った論稿は、「ロメール、小津、是枝における日常の中の驚き」〔« Surprise dans le quotidien chez Rohmer, Ozu et Kore-eda »〕と題されたもので、2014年にフランス語で出された彼の著書『アート、過剰と境界』〔*L'Art, excès & frontières*〕と同様に、彼が心を込めて保ちつづけてきたこの日仏の阿吽の呼吸を証示しています。

彼がすでに私たちのもとから去ってしまったことを悲しみながら、彼と知り合う喜びを得られたことを栄えある幸せと感じて、私たちは、彼のご夫人、ご家族、ご友人たちに、心から哀悼の意を表したいと思います。

ドミニク・シャトー、ジャシント・ラジェイラ、
ジョゼ・ムール、フランソワ・スーラージュ
〔Dominique Chateau, Jacinto Lageira, José Moure, François Soulages〕
大学教授（パリ第1パンテオン・ソルボンヌ校、
パリ第8ヴァンセンヌ・サン・ドニ校）

（付記）

このテキストは、北山研二・本研究会会長（当時）逝去の3日後の2023年3月8日に、パリ第1大学名誉教授のドミニク・シャトー氏から、北山研二夫人の北山ゆり子氏と本研究会幹事の村瀬鋼宛に送られてきた仏語追悼文の、日本語訳である（村瀬訳）。日本の関係者への公開の許可を得て、受信後すぐに、当会会員他の関係者に原文や訳文をメールで共有したが、あらためてここに訳文を掲載する。なお本文中〔 〕内の原文等は訳者による挿入である。（村瀬鋼記）